

授業の流れがわかる『板書』の工夫

【 板書の意義・役割 】

- ① 学習内容の要点がわかる
(理解の定着, 視覚に訴え客観的に捉えさせる)
- ② 子どもたちの思考を助ける
- ③ 子ども自身のノートがまとめやすくなる
- ④ 授業の流れがわかり, 振り返りがしやすくなる

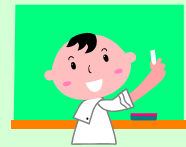


板書のポイント

◆構造的に, 授業の流れがわかるように, 構成を考えて書く

- ・めあてやまとめ
- ・子どもの考え(思考の流れを意識して)
- ・学習内容に係る重要発言や重要語句

※ 1時間の授業を振り返ることができるようにする



◆見やすく, わかりやすく書く

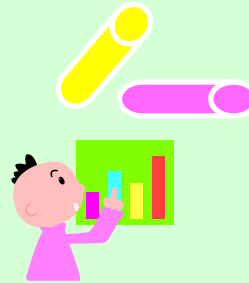
- ・文字の大きさ
- ・図や表, 写真や絵などの活用
- ・図式化や模式化
- ・色チョークの使用(校内でのルール必要)
- ・記号化や囲み等
- ・板書の量

◆ICT機器との効果的な併用を行う

◆板書のタイミングに気をつける

- ・授業のねらいやめあてを明確にするとき
- ・学習内容を強調するとき
- ・学習内容をまとめるとき

◆ノート指導と関連させる



板書例 (概要)

5/9・p36

(めあて) ○○について考えよう

(みんなの考え)

- ・△△するとはやくできる
- ・○○したらよい
- ・～が比べやすくなる

・円グラフで比べる



(まとめ) □□するとわかりやすくなる!

図やイラスト, 絵や写真, 色チョーク等を用い, 見やすくわかりやすくする

簡条書きやキーワード, キーセンテンス, 記号を活用して整理して書く

《マグネットスクリーン》
・実物投影機や電子黒板を活用した際の映像を映す

※ 黒板に貼ると視線移動が少ない
※ 板書では, 必要な内容を精選して書くことが大切(特にICT機器を活用する場合)

学習のめあてを必ず書くとともに, それに応じた言葉でちゃんとまとめを書く